

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
 大阪市中央区道修町3-3-10
 大阪屋道修町ビル3F
 06-6232-1095

『「就活」の現場から今日の雇用問題を考える』

< 講演会に63名参加 >

2月8日、アイクルの部屋で、講演会『「就活」の現場から今日の雇用問題を考える』を開催しました。講師の池田憲彦さん(羽衣国際大学前キャリアセンター課長)は、大学でインターシップ先企業との提携など学生の就職活動に携わり、大阪私学教職員組合や「大阪過労死を考える家族の会」事務局などで活動してきた方です。参加者は63名。アイクルの部屋に入りきれず、急きょ第二会場にテレビ中継を行いました。講演の後には池田さんを交えて交流会、手造り料理で楽しく懇談しました。

【講演要旨】

池田さんは、「よく使われる『人材』という言葉は私は好きではありません。『人的材料』を短縮した言葉ですが、人間は「材料」ではないと思うからです。今では「人財」とも使われていますが同じことです」と切り出しました。

「就職内定率」のからくり

大学では、11月頃、推薦入試合格者に「就活の心構え」という入学前資料を配布します。今、大学3年生からの早すぎる就活が問題となっていますが、すでに入学前からこのような資料が配布されているのです。そこには、「新卒の採用試験では、企業の採用担当者が親切に会社を説明してくれて、あなたの話を真剣に聞いてくれる。新卒ブランドはVIP待遇を受けることとなる」と書かれています。しかしVIP待遇などありえません。現実の企業の対応、就職状況は、マスコミの報道よりもさらに厳しいものがあります。

文部科学省が発表した就職内定率は、96年に調査開始以来最低の68.8%です(2010年12月1日現在)。しかしこの数値は、全国約750ある大学のうちわずか66校の調査でしかありません。また、就職率の分子は内定者、分母は就職希望者ですが、途中で就活を辞めたり、留年を余儀なくされたり、不明な学生はどんどん分母から除かれていきます。結果、実際の状況より高い数値が出ているのです。

高い離職率と貧困

それでは、苦勞して就職できればバラ色でしょうか。よく「7・5・3現像」といわれます。若者の3年以内離職率の高さを表すものですが、中卒・72.3%高卒・48.9%大卒・35.4%となっています。大卒でいえば、その主な原因は入社すぐから過重なノルマをかけられ、長時間労働となっていることです。その結果転職となるわけですが、『労働経済白書』の発表で転職の多さの順位は、1位、非正規→非正規 2位、正規→正規



講師の池田憲彦さん

3位、正規→非正規 4位、非正規→正規 の順です。これでは正規社員が増えるわけがありません。

昨年の卒業無業者は14.7万人で大学卒が8.7万人、高卒が6万人です。現在の15歳から34歳の無業者は63万人、フリーターが411万人です。ひきこもりも70万人で、うち20歳以上が63%、就活からひきこもりとなる人がいます。大なり小なり親にパラサイト(寄生)しているのが現状です。フリーターの平均年収は140万円です。また年収200万円以下のワーキングプアは1,100万人に近づいています。さらに毎年1万人以上が過労死・突然死で亡くなっています。これが日本の貧困の現状です。

雇用のルール確立を

このような今日の雇用問題について「特効薬」はありません。大企業が内部留保を切り崩し社会的責任を果たすこと、大学・経済界・政府で就活にむけてのルールを確立していくことが必要です。また労働の規制をさせるための法的な措置や強固なセーフティネットの確立も重要な課題です。これはなによりも日本の未来の問題です。若者の社会人としてのスタートが失業者と言う社会でいいはずがありません。

池田さんは最後に、「お互いがこの問題の当事者になりましょう」と話を締めくくりました。

日新職場革新懇を開催（22回）

辞めたくない人を辞めさせない！

いま損保各社では、「転進チャレンジ支援」とかさざまな名称で、人員削減・退職勧奨が始まっています。また「降格制度」の新設などを行う会社もあり、各社が人件費の削減を競い合っている状況です。「こんなことで、契約者・被害者や代理店さんの期待に応えることができるのか」の声も上がっています。そんな中で、昨年12月に会社が「早期退職優遇措置」を発表した日新火災で、1月13日に22回目となる日新職場革新懇が開催されました。

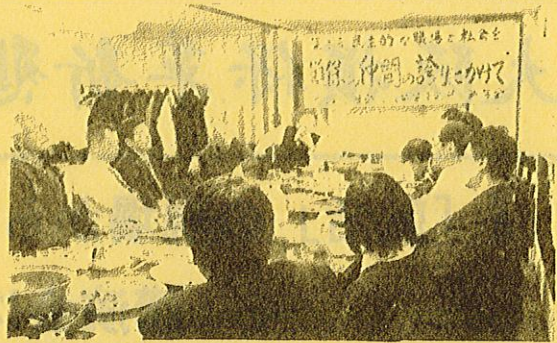
日新の早期退職は、全国型・広域型社員の「希望退職」を募集するとともに、勤務地ごとに地域型社員の「希望退職」も募集するというものです。京阪神では17名の退職を募集するというものです。すでに面談で、一人ひとりの退職に応募した場合の加算金を含めた退職金額の提示や手続きについての説明が行われています。

その中で、日新の職場革新懇では、『辞めたくない仲間が、無理やり辞めさせられることがないように』を合言葉に、みんなと声を掛け合ってきました。その退職応募受付が始まる直前に開催されたのが、この日の集まりです。

この集まりは今までも、新年会と3月の送別会夏の納涼会など、職場のことや社会のことなどを気楽に話し合い、楽しく飲む会を9年間続けてきました。今回は営業・損サ・業務の職場の仲間のほか、代理店・OBまで20代から60代まで18名が参加しました。

今回の早期希望退職のことや、会社としての本来あるべき姿、自分たちの仕事のことなど、鍋を囲みながら語り合いました。特に、早期退職募集の大騒ぎの中でしたから、自分たちの仕事、職場、産業への誇りこそが大切との思いが語られました。

この日の会場正面の横断幕のスローガンは、『築こう民主的な職場と社会を 損保の仲間の誇りにかけて』でした。夜遅くまで語り合い再会を約束しお開きとなりました。



18名の参加で盛り上がった日新職場革新懇

沖縄平和ツアーに参加して

大阪革新懇の呼びかけで大変有意義な4日間（1月21日～）を過ごしてきました。

基地は普天間と嘉手納の2ヶ所に行きましたが広大な土地を占領し轟音をとどろかせて飛ぶ米軍機、沖縄の人は基地の飛行訓練などの状況をみれば世界の情勢が分かるのとこと、イラクやアフガンなど紛争地域へこの沖縄基地から人を殺しに行く部隊を、何故、私達国民が税金で思いやり予算として面倒をみなければいけないのか、あらためて怒りが沸きました。

辺野古では団結小屋の代表の大西さんから現状を聞き、このコバルト色のきれいな海を基地には絶対させてはならないと思いました。

首里城なども見学し最終日の自由行動では行って見たかった「ひめゆりの塔」へも、ガマ（ほら穴）で亡くなった多くの少女たちの遺影を見て絶句……。もう二度とこんな過ちを繰り返さないよう、日米安保条約を破棄して憲法を守り、自主独立の日本へ、政治を変えていかねばと強く感じました。（飯阪健一）

絵てがみ教室のご案内

“便りを待つ”の投書がきっかけで、見知らぬ人から届けられる週一回の絵てがみは、「青年の宝もの」になった。どうしても返事を書きたいと、つき上げる思いで言葉を覚え、文字を習い、ついには詩をつくるまでに……！

心のかけはし 発刊記念

—絵てがみ10年の筆あと—

著者：永井喜代子さん（革新懇会員＝元住友海上）を講師に開催します。

とき：3月18日（金）PM6:30～

ところ：アイクルの部屋